NO. 2021・65 号
発行日：2021 年 4 月 9 日

検査のパレット

広島記念病院消化器センターは今年で設立 5 年を迎えます。そこで今回は、消化器のひとつである胆嚢について 2 回にわたってお話ししたいと思います。

胆嚢は肝臓と十二指腸をつなぐ胆道という道の途中にある洋なしのような形をした臓器で、脂肪を消化するために必要な胆汁を貯蔵・濃縮し、十二指腸へ排出する役割を担っています。すなわち胆嚢は脂肪の消化吸収や有害な物質の排出に関わっている臓器といえます。

胆嚢の有力な検査法の一つに腹部超音波検査があります。胆嚢の検査では胆嚢の内部に存在しているものが動くかどうか経時的に捉えたり、胆嚢を多方面から検索したりすることで状態を評価していきます。

腹部の超音波検査とはお腹に器械（プローブ）をあて、超音波（3～5MHz）を使って、腹部臓器と下腹部臓器、腹部大動脈に異常がないかを調べます。皆さんは超音波の画像といえば白黒のぼんやりした画像をイメージされる方が多いかと思いますが、これは超音波が体内の臓器などにあたり、その跳ね返りの強さを画像として映し出していることに起因します。跳ね返り（跳ね返りのことを一般に『輝度』といいます）が強いものは白く表示され、跳ね返りが弱いものは黒く表示されます。

では胆嚢や胆道系の病気にはどのようなものがあるかご存知でしょうか。耳なじみのある病気の一つに胆石症があると思います。この胆石症と超音波所見についてお話します。

○胆石症

胆石症は胆嚢や胆道に形成された結石によって、右の肋骨の近くやみぞおちなどに痛みを伴ったり、胆嚢炎や胆管炎を誘発したりする病気です。炎症を誘発することもありますが、半数は症状がなく経過していきます。

胆嚢は肝臓で生成された胆汁（液体）を貯めているので、超音波検査では黒い袋状に観察されます。胆石症ではこの胆嚢の中にコレステロールやビリルビン、カルシウムといった体内の成分で生成された石（結石といいます）が認められます。結石は硬いものが多く、超音波の跳ね返りが強いので白く観察されます。また壁にくっついてできるポリープとの鑑別のために患者さんの体の向きを変えたり、プローブを動かしたりして、白く観察された結石が動くかどうか評価していきます。

次回は胆嚢の炎症性疾患である胆嚢炎と、胆嚢腫瘍についてお話していきます。

（参考文献）病気が見える 消化器 vol1
日超検 腹部超音波テキスト 第２版

文責　藤澤　悠　　監修　永田　拓生